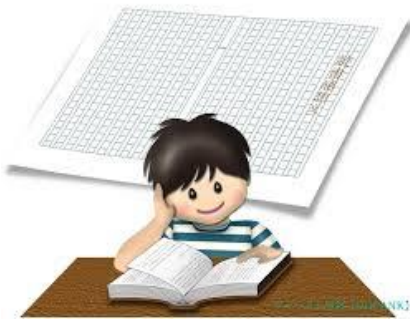


令和二年度

「高志の国文学」情景作品コンクール

入選作品集



## 令和2年度「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品一覧表

### ○文芸部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	劔岳点の記を観て	高岡市立高岡西部中学校	1	鳥羽 董	劔岳点の記
	高校生	令月の白梅	高岡高等学校	2	山本 侑奈	万葉集

### ○文芸部門(散文、詩)部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
金賞	中学生	ドラえもんは僕	南砺市立井口中学校	3	三輪 優季乃	ドラえもん
	高校生	ポケットから道具の出ないこの世界で	高岡高等学校	2	水門 裕策	ドラえもん
銀賞	中学生	届け！平和への思い	富山市立堀川中学校	2	森川 真尋	男たちの大和
		きみがいなきゃ	南砺市立井口中学校	1	東 英里香	ドラえもん
	高校生	家持を虜にした魅力	高岡高等学校	2	西野 花梨	万葉集
		「のび太」から学ぶめない生き方	富山西高等学校	1	黒崎 悠太郎	のび太という生き方
銅賞	中学生	おばあさんから聞いた戦争の話で感じたこと	黒部市立明峰中学校	2	辰 莉乃佳	黒部
		八月一日	富山市立芝園中学校	3	横山 昂生朗	八月二日、天まで焼けた
		とびきりの「キトキトの魚」	高岡市立高岡西部中学校	1	盤若 なな子	キトキトの魚
	高校生	優しさと小さな勇気	高岡高等学校	2	沖 夏子	ドラえもん
		新しい世界に飛び出して	高岡南高等学校	2	藤田 璃子	城端
	山が見える	高岡南高等学校	2	金森 江里菜	富山の山々	
佳作	中学生	こどもから子供へ	黒部市立明峰中学校	2	宮下 美夢	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	7つの山車の神様へ。	高岡南高等学校	2	津田 礼百	高岡御車山祭り

### ○文芸部門(短歌、俳句)部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
金賞	中学生	赤祖父の山河	南砺市立井口中学校	3	林 空弥	赤祖父郷土地改良区史
	高校生	志功板画に思う	高岡第一高等学校	3	細川 依露	棟方志功作品集～富山福光疎開時代
銀賞	中学生	無題	富山市立北部中学校	2	田近 佐知	納棺夫日記(映画「おくりびと」)
		立山三景	南砺市立井口中学校	3	山崎 麻由	黒部源流 山小屋ぐらし
	高校生	無題	上市高等学校	2	渡辺 菜月	万葉集
		無題	上市高等学校	2	宮坂 侑菜	万葉集
銅賞	中学生	「春を背負って」を見て	高岡市立高岡西部中学校	1	藤田 有	春を背負って
		涼を楽しむ夏	富山市立西部中学校	3	手島 里菜	称名滝
		無題	富山市立興南中学校	3	菅原 唯愛	とやまの風物詩
	高校生	隧道	高岡高等学校	2	花川 侑紀	高熱隧道
		無題	上市高等学校	2	辻 綾音	万葉集
	富山の風景	俳句	高岡南高等学校	2	中井 亮典	雨晴海岸
佳作	中学生	夏	富山市立西部中学校	3	長谷川 倫太郎	夏
	高校生	富山の風景	俳句	高岡南高等学校	2	駒井 颯

※ 文芸部門は、知事賞以外は「散文・詩」「短歌・俳句」の区分ごとに賞を設定

○美術部門

賞		題名	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	絆	富山市立三成中学校	3	松田 哲太	人生の約束
	高校生	橋まつりの日	富山中部高等学校	2	平井 有佳	とやま百川
金賞	中学生	おわら風の盆	富山市立和合中学校	3	谷口 侑依	燈火風の盆
	高校生	タイムトンネル	富山西高等学校	3	七澤 日南	ドラえもん
銀賞	中学生	希望	富山市立堀川中学校	2	田代 将鷹	劔岳<点の記>
		きこえる	富山市立和合中学校	3	安藤 望心	LIFE 楽園をもとめて 生命と美の物語
	高校生	通学路	富山中部高等学校	2	武部 知紘	長岡の郷土史
		思い	高岡工芸高等学校	1	木田 愛梨	桜花 今ぞ盛りと人は言えど我れは寂しも君とあらねば
銅賞	中学生	夕日が沈んだ町	富山市立奥田中学校	3	川崎 愛恵	環水公園
		せいちょう	高岡市立牧野中学校	3	横島 アケミ	おおかみこどもの雨と雪
		にじのもと	富山市立和合中学校	2	安藤 百奏	句景とやま 21世紀のふるさとの風景を探して
	高校生	杉沢の沢杉	富山高等専門学校	2	山下 ゆい	国天然記念物とやま巨木探訪
		赤らむ	富山中部高等学校	2	岩尾 琉花	とやま祭りガイド
		誇り	富山中部高等学校	2	松島 凜	劔岳
佳作	高校生	守り神のいでたち	富山中部高等学校	2	斎藤 優希	カモシカとしよかん
		五箇山と自然	小杉高等学校	2	前口 ちひろ	世界遺産の合掌造り集落

○写真部門

賞		題名	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	ドラえもん <small>のふるさと</small> 富山	小矢部市立大谷中学校	2	加納 涼成	ドラえもん
	高校生	生命の水	富山中部高等学校	1	石原 剣	万葉集
金賞	中学生	生命力	富山市立堀川中学校	1	氏家 雅晴	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	堪忍	富山南高等学校	2	大原 菜月	長い道
銀賞	中学生	海王丸パーク・新湊大橋	小矢部市立大谷中学校	3	竹原 菜々花	ナラタージュ
	高校生	びいどろ	富山南高等学校	1	下田 浩夢	びいどろに酒のうつりや雲の峰
		あかい街	第一学院高等学校	2	田村 和也	RAILWAYS
銅賞	中学生	「日本のベニス」内川	富山市立堀川中学校	2	源 航希	富山の港町
	高校生	吾輩はニコニコである	高岡第一高等学校	2	吉田 和真	アズミ・ハルコは行方不明
		約束	富山南高等学校	1	高寺 帆春	人生の約束
		徒花	中央農業高等学校	2	岩白 颯太	おおかみこどもの雨と雪
佳作	高校生	静かに輝く朝日町の宝	泊高等学校	2	河村 美乃里	富山わがまちこ一番
		忘れてはいけない	富山東高等学校	1	室山 杏里紗	りんこちゃんの8月1日

# 知事賞（中学生の部）

題材『劔岳点の記』

劔岳点の記を観て

高岡市立高岡西部中学校一年 鳥羽 董

私がこの作品を観たきっかけは、母がすすめてくれたことだった。それまでこの作品の名前すら知らなかったけれど富山県を舞台にした作品だと知って興味がわいた。

点の記とは地図を作るときに基準となる場所にうめられた標石を三角点といい、それを記録した日記のことである。

明治三十九年、陸軍参謀本部は軍の測量隊に劔岳に三角点を設けることを命じた。選ばれたのはシバサキヨシタロウ。シバサキは山の案内人たちと共に劔岳にいどむ。しかし、そこには地元の人々の反対、自然の厳しさ、登頂を争う山岳会など様々な困難が待ち構えているのである。

私がこの作品を観て心に残るシーンがいくつかある。一つは、いざ登頂しようとしたその時、今まで先頭を歩いてきた案内人がシバサキに先頭をゆずるシーンである。しかし、シバサキは「我々はもう立派な仲間です。私はあなたが居なければここまで来れなかった。この先も仲間と一緒になければ意味がないのです。最後まで案内お願いします」と案内人の申し出を断るのである。軍の命令で来たてまえ、前人未踏の山への初登頂は自分でありたいと思うのではなく、苦しい日々を共にし、ずっと先導してくれた案内人へ敬意を払うシバサキに心をうたれる。

そうして測量隊は劔岳に登頂するが、岩の間に修験者の持つ錫杖を見つけ、測量隊よりも先に登頂した者がいたという事実を知ることになる。陸軍は、自分たちの軍が初登頂ではなかったということについて否定的に受けており、それを知った測量隊の気持ちがとても伝わっ

てくる。自分達が一番で無ければ何の意味も無いのだという陸軍の考えは測量隊にとって辛く、くやしかったに違いない。しかし作品の中にはこんなせりふがある。「人がどう評価しようと、何をしたのかではなく、何のためにそれをしたかが大切。くいなくやりとげることが大切。」この言葉は陸軍がどう評価しようと、測量隊は地図をつくり、そこに住んでいる人のことを考えて命をかけて劔岳に登ったことに対する言葉であり、とても心にひびく言葉である。

また、映画のラストシーンでは測量隊と登頂を争っていた山岳会が測量隊に「劔岳、初登頂おめでとうございます。」と手旗信号を送る。

山岳会が劔岳初登頂は測量隊ではなかったという事実を知っていたのかどうかは分からないが、争っていた相手をたたえ、お互いの登頂を喜び合う仲間になれたというとても印象深いシーンである。自然の偉大さ、厳しさの前では人間はちっぽけなものであり、争いはどうでもよい、みんな同じ目標を持った仲間なのだと感じられるほど劔岳は、多くの人々を魅了する素晴らしい山なのであると感じた。

さらにこの作品で注目すべきところは映像の美しさである。立山連峰や雲海など一つ一つの映像に目をうばわれる。

また、CGを使わず、上からの映像もヘリコプターやドローンを使わずにすべて人の手で撮影している。季節の移り変わりや吹雪の中の撮影なども全て実際に役者さんが劔岳を登って演じているからこそ登場人物の感情や劔岳のけわしさ、登る大変さが伝わってくる。この映画は二年もかけてこだわって作った作品であり、とても見応えがある映像だった。

私はこの作品を観て登場人物の言葉一つ一つに心を動かされ、作品を通して仲間の大切さを教えられた。私は、目標のために仲間と共に協力し合う事の大切さ、たとえ失敗したとしてもくいなくやりとげることの大切さを劔岳点の記から学ぶことができた。また、美しい山々の映像を観ることができて、このような自然のある富山県に住んでいることを誇らしく感じられるとても良い映画だと思う。

# 知事賞（高校生の部）

題材『万葉集』

## 令月の白梅

高岡高等学校二年 山本 侑奈

電氣もつけずにコートを羽織り、ゆっくりとブーツを履く。静まり返った家には私以外誰も居ないが、何となく音を立ててはいけない気がして、そっと玄関の戸を引く。

——ガチャッ：ギツ：キキキ：

闇で満ちていた無機質な空間に生命の灯をともしように、月明かりが差し込む。刺すような外気の冷たさは一瞬私を躊躇わせるが、大きく息を吸うと、ふっと体が軽くなったような気がした。今日も私は、澄みきった世界へと一歩踏み出す。

眠れない夜、私はこうして誰にも知られずに外に出る。寝しずまった街の中に、一人。街灯も信号もないこの道を、月明かりだけが柔らかに照らす。私はこの、誰ともつながっていない時間が好きだった。この世界に私だけ、という感覚が生み出す浮遊感。心地よく、心に渦巻く全てのものをリセットしてくれるようだった。私が親元を離れる時に選んだこの地は雪国で、昔、この季節は見渡す限りの銀世界だったそう。私がここに来てからは淡雪ぐらいいしか見たことがないが、私たちを守るかのように三方を囲む山々が雪化粧する姿には華があるし、多く積もった日には、木々の雪吊りがよく映える。

今日も雪は積もっていなかったが、やわらかく吹く風は冬の匂いを運び、湿雪の気配を孕んでいる。家を出るときに刺すように感じた冷気も、歩いている体には気持ちよく、澄んだ冬の空気は全てを浄化してくれるようだった。

私はあてもなく歩いた。眠れないといっても、とりわけ嫌なことが

あった訳ではない。勉強も人間関係も、それなりに上手く行っていると思う。けれど、何となく落ちつかなくて、どうも眠れなかった。きっと私は、疲れているのだろう。いつでも人とつながれる時代になつて、四六時中誰かを気にしてはいけないといけない社会に。少しでも気を緩めるとおき去りにされてしまう恐怖に。常に自分の存在意義を探していないといけない日常に。この世界は刻一刻と変化している。毎日それについていくのに必死で、気がつけば私の心は擦り減っていたのだ。

そんなことを考えながら歩みを進めるうちに、ずいぶん遠くまで来ていた。来た道を引き返そうとしたとき、傍らの隘路に淡く光る何かが見えた。少し近づきよく見てみると、それは近隣の庭から枝を伸ばす白梅だった。開き始めた梅の蕾の柔らかな白が、淡く光って見えていたのだ。

私はしばらく動けなかった。今にもほころびそうな蕾の生命力、一足先に咲いた花の昂然たる色艶、嫋やかに、そして力強く伸びる枝。こんなに狭隘な侘しい場所で、誰に見られるでもなく、ただただ懸命に「自分」を生きている。その姿は真っすぐ私の胸を貫いた。そう、私は大事なことを忘れていた。一瞬の間にも変化し続けるこの世の中で、「普通」に生きることとはとても難しい。世の中が変わるといふことは、その基準である「普通」も変わるといふことなのだ。だから。だったら最初からそんなものに振り回される必要はない。めまぐるしい世の中の変化に「ついていこう」とするのではなく、変化を「肯定」すれば良いだけなのだ。世の中を、そして自分を、一度受け入れた上で自分の思う道を歩む。そう、そうすれば、この白梅のように凜とした、気品あふれる生き方ができるはずだ。

澄み切った冬の空の下、行きよりも確実な足取りで来た道に戻る。確かなものが、心に嵌まった気がした。

月と梅の淡い明かりが頬の色づいた私を照らしていた。

## 【散文・詩部門】

### 金賞（中学生の部）

題材『ドラえもん』

#### ドラえもんと僕

南砺市立井口中学校三年 三輪 優季乃

君がいてくれるから  
広がる僕の世界  
君のアイディアで  
変わる僕の未来  
うまくいったときも  
うまくいかなかったときも  
いつも支えてくれた君

怒ったり泣いたり  
することもあるけれど  
最期はいつも  
一緒に笑っている君と僕  
これからどんな  
世界が待っているだろう  
これからどんな  
未来が待っているだろう  
どんな世界でも未来でも  
ずっと進んでいく僕たちは  
友達であり  
家族であり  
みんなの夢を創り続ける

### 金賞（高校生の部）

題材『ドラえもん』

#### ポケットから道具の出てこないこの世界で

高岡高等学校二年 水門 裕策

僕は電停にやってきたドラえもんトラムに乗り込む。午後四時四十分のことだ。

僕が通学に使っている万葉線という電車は、二両編成の丸っこいフォルムをした路面電車だ。何機かある車両のほとんどは赤色に塗装されているが、一機だけ青色に塗られ、ドラえもんのキャラクターが描かれたものが存在する。それがドラえもんトラムだ。運行時間が一定のドラえもんトラムに僕が乗るのは、ろくに部活もせずに学校という牢獄から逃げ出してきた午後四時四十二分と決まっている。

静かにドアが開き、乗り込む。車内は外国人観光客に埋めつくされている。無論座席も空いていないので立ったままだ。僕の知らない言語が飛びかっている。うるさくて仕方がないが、日本語でないだけマシだ。日本語でしゃべられると自分が嘲笑されているような気になる。

無駄に重たい荷物による責め苦を肩で耐え、心中で教材の多さに文句を言っていると、ある駅で観光客たちが一勢に降車していった。空いた席を見つけ、座る。ちょうどその席の傍の窓に、のび太のイラストが描かれていた。何一つ悩みなど無さそうな笑顔をこちらに向けている。

僕は小生意気な小学生だった頃、のび太が嫌いだった。平気で零点をとる所や、虐められてもやり返さない所に腹が立った。何より、そ

んなのび太のようになるのが嫌だった。

のび太のイラストの隣に映る半透明な自分の姿を見る。猫背で、暗い顔をしている。もつと酷いものに成り下がっていた。あるいは初めからずっとこうだったのかもしれない。のび太は遅刻するし授業態度も不真面目だが笑って学校に行っている。友達も多い。彼は学校を牢獄などとは思わないだろう。周囲から馬鹿にされても堂々と立っているのだろう。過剰な自意識で自らを傷つけることなどないのだろう。あの満面の笑みで、生きているのだろう。

小学生の僕へ。おめでどう。お前はのび太みたいにならないぞ。なれないぞ。結局叶わぬ望みだから、なりたくないなどと言って見て見ぬふりをしていただけなのだ。僕はのび太のようにありたかった。

馬鹿にされても挫けず、殴られても殴り返さず、困ったことがあつたらすぐに人に頼れる。そういうのび太の強さが欲しかった。いつまで時間を巻き戻せば、僕は強くなれるのだろう。いや、そんなことが不可能なのは知っている。タイムマシンなど存在しないのだから。僕がいるのはあのなんでもありでご都合主義な世界ではないのだから。

気がつくど、あれほどいた乗客は皆いなくなって、車内には僕と運転士さんだけになっていた。気がついたら失っていた。そんなことを繰り返してきた。それはもう取り戻せないもので、あたかも失っていないかのように取り繕って生きていくしかないのだろう。この世界で強く生きていくにはそうするしかない。ポケットから何も出てこないのがこの世界なのだから。それでも、もし今を、過去を、未来を変えられる不思議な道具がポケットから出てきたらどうなるだろう。そんな空想を許してくれる世界が、ここにはある。ドラえもん。あの世界

は、道具でなんとかあった現実で、あるいは道具でもどうにもできなかった現実で、生きる希望を歌っている。どうしようもない現実も、目を背けたくなる今も、きっと馬鹿みたいに笑って生きていいんだと、そう思わせてくれる。

久し振りに、読んでみようか。そんな事を考えながら、僕は少しだけ背筋を伸ばし、ドラえもんトラムを降りた。

# 銀賞（中学生の部）

題材『男たちの大和』

## 届け！平和への思い

富山市立堀川中学校二年 森川 真尋

三年前の夏、私は日本でも真珠湾の名前で知られているパールハーバーの巨大戦艦に乗艦した。降伏文書調印式が行われた歴史の舞台上立ち、私の心が震えた。

今年は戦後七十五年の節目だが、コロナ禍の影響で、戦争を体験した人の話をオンラインで聞く学生たちのニュースが流れていた。

私も何か戦争について知りたくなり、『男たちの大和』をみた。大和の最後を描いたこの作品は、「戦争にならないためにどう考えるか」が意図されている。

この作品の著者は、富山県出身のノンフィクション作家・歌人の辺見じゅんであると知り、興味を持った。辺見の父は俳人の角川源義であり、若き日の短歌には戦争中のものがある。

辺見は、「父は故郷の蜃気楼のようなものに思われる。逃げ水のように近づくとも遠くなってしまう。」と言っている。もともと一兵卒だった父のことを思い、父の伝記を書こうとし、それができずに『男たちの大和』になったと知った。「言葉というのは、ことのは、言葉、人間の魂が入っている。人間が最後に残す言葉は、ささる、しみいる」辺見じゅんの言葉である。

私は小学生の時に、広島平和記念資料館でオバマ大統領の核兵器廃絶へ向けたメッセージと、傍らに添えられた折り鶴をみた。また、展

示してある遺書などの最後の言葉は、私の心にささった。この体験をきっかけに、私は歴史を学ぶ旅に興味を持った。

私の祖父が富山大空襲を体験していることを母から聞いた。富山大空襲を語り継ごうとしている人々がいる一方、父をなくした祖父はあまり語りたがらず、忘れたい記憶と言った。

戦争の遺構をめぐる中で、日本による真珠湾攻撃で海に沈んだ戦艦アリゾナの記憶がよみがえった。米ハワイのこの場所は、太平洋戦争の歴史を学ぶことができ、年間百万人が訪れる国定歴史建造物である。

訪れる八割がアメリカ人で、日本人の姿はほとんど見かけなかった。クルーズ船で向かう前に二十分ほどの映画を鑑賞した。日本とアメリカの歴史を事実に基づき、描かれていた。日本のように戦争の悲惨さを伝える場所というよりは、真っ青な空と気候のせい、不思議と明るい場所に感じられた。海上の記念碑は沈んだ戦艦アリゾナの上に建てられており、海を覗きこむと現在もオイルが流れていた。多くのアメリカ人とともに、私も慰霊した。そして平和を強く願う自分に気がついた。

令和の時代、戦争を知らない世代が国民の八割になり、戦争体験者の平均年齢は八十三歳を超えた。

近代以降、日本の歴史の中で、私が生まれた「平成」は唯一戦争がなかった。しかし世界では、今なお戦争が続いている。また、同世代がAIを使ってモノクロ戦争写真のカラー化で、戦争体験者の記憶を継承していくことを模索していた。薄れていく戦争の記憶と向き合い過去の歴史に学ぶことが大切である。戦後の時代がこれからも続くことをねがって。私にもできることを見つけていこう。

「届け！平和への思い」



## 銀賞（中学生の部）

題材『ドラえもん』

きみがいなきや

南砺市立井口中学校一年 東 英里香

きみがいなきや

僕は何もできない

きみがいなきや

僕はどこにも行けない

きみの秘密道具も

なにもない

きみがいなくて歩いていけるのか

胸に手をあて

考えてみる

でも大丈夫

僕胸の中には

いつも見守ってくれる

きみがいる

僕だけの

秘密道具を作るんだ

## 銀賞（高校生の部）

題材『万葉集』

家持を虜にした魅力

高岡高等学校二年 西野 花梨

突然ですが、あなたは富山に住み始めて何年ですか？私は生まれも育ちも富山なので、今年で十七年になります。では、富山の魅力をいくつ言えますか？これを初めに考えた時、私は十個も言うことができませんでした。そのことがとても恥ずかしかったですし、そもそも自分は富山の魅力をちゃんと分かっているのかと、不安になりました。

きっかけは、万葉集に載っている「しなぎかる 越に五年 住み住みて 立ち別れまく 惜しき夕かも」という、越中に国司として赴任した大伴家持が五年を越中で過ごした後、都に帰る時、越中との別れを惜しんだ歌です。私は家持について調べた時、彼が京に子供を残して越中に来たと知り驚きました。子供が泣いているだろう、と心配した歌も万葉集にはあり、越中の美しい自然を賞賛した歌人とは違う父親の一面も見えました。家族と離れて、知らない土地に来た家持はとも寂しく、京が恋しかったに違いありません。しかし、家持は少しずつ越中の魅力に気付き、五年後には別れを惜しんでいます。越中はたった五年で、家持を虜にしたのです。家持が生きたおよそ千三百年前の越中と令和の富山は大きく違うかもしれませんが、富山にはずっと昔から人々を魅了するものがあつたのです。私は、県外の方に富山の魅力を聞かれた時、「富山にはなんもないちゃ」と答える方を見ることがあります。もちろん謙遜もあるかもしれませんが、それはもったいないです。万葉集から富山の魅力を辿ると、実に様々な魅力が富山にはあるのを感じました。例えば、立山。家持の歌にも、立山の雄大さ、美しさを詠んだものがあります。「でも立山って、結局はた

だの山じゃない」という意見もあると思います。しかし、立山は千年以上も前から富山を見守り、励まし、守ってきたのです。また、古くから信仰の対象にもなり心の面でも私たちを支えてきました。立山は、家持の時代から令和の私たちの時代まで、ずっとある富山の魅力の代表と言えるでしょう。もちろん、立山だけではありません。雨晴海岸に寄せる波の美しさも、堅香子の花の可憐さも、今もなお変わらないものです。それに、令和の今、富山にはもっともっとたくさん魅力があります。今まで挙げたのは自然の風景でしたが、食べ物ではブリ、ホタルイカ、鱒寿司、呉羽梨など、考えるとするすると浮かびます。お祭りを挙げるなら、八尾のおわら風の盆、高岡の御車山祭り……。お気づきの通り、私たちは、富山の魅力をもう知っているのです。先程「もったいない」と言ったのは、富山の魅力を知らないことではなく、富山の魅力を、当たり前前に思っていることです。私も、生まれた時からある立山のことを当たり前ものとして見ていました。しかし、身近にあんなにきれいな山があるのは、ほかではなかなかないことではないでしょうか。逆に言えば、家持は越中の「外」の人であったからこそ、越中の人々が当たり前だと思っていた魅力に敏感に気付いたのかもかもしれません。県民である私たちは、「内」の人として、富山の魅力を改めて考えるべきではないでしょうか。「外」の人であった家持があんなにも富山の魅力を見つけたのなら、私たちもそれに負けないくらい富山の魅力を見つけ、愛し、発信すべきではないでしょうか。「富山の魅力は何？」と聞かれたとき、すぐに答えようとせず、深呼吸を一度してみてください。きっと頭の中にたくさん、富山の「魅力」が浮かんでくるはずです。

今私は高校二年生なので、早くて二年後には進学などを機に県外に住むことも考えられます。その時、もし「富山の魅力は？」と聞かれたら、ゆっくり深呼吸した後、たくさん、たくさん話したいと思います。家持をも魅了した富山を、家持に負けないくらいに。

## 銀賞（高校生の部）

題材『のび太という生き方』

### 「のび太」から学べない生き方

富山西高等学校一年 黒崎 悠太郎

私が思うマンガの最高傑作といえ、ドラえもんである。また、「ドラえもん」は海外でも人気を集める名作である。

このマンガの代名詞にもなっているのび太について、多くの読者は成績が悪く、運動もダメ、先生や母親には毎日しかられ、友達にはいじめられてばかり。しかし、ドラえもんのひみつ道具が彼に夢を運ぶというストーリーである。」と考えるだろう。しかし、「のび太という男は、実は想像以上に人生を上手に歩んでいる。」と著者は語っている。

私も、この名作に出会うまでは、「ドラえもん」について、ただの小学生向けのマンガとしか思っていなかった。しかし実は、ひみつ道具の中に、何らかのメッセージが含まれており、それらを読み取ると、何が起ころうが自力で解決することが良い方法であるということが分かる。「ドラえもん」の底に著者からの子どもたちへのメッセージがあることを知ったとき、目から鱗が落ちた。

また、「ドラえもん」の内容は多様化していて、いじめや登校という身近な問題から現代社会・地球環境という大きな問題を、課題に対する価値あるメッセージと共に取り込んでいると著者は分析している。

このように考えるとマンガ「ドラえもん」は非常に奥が深く、「所詮マンガ」の一言では片付けられないように思う。

私とのび太を比較すると、思うことがある。私は心配性でマイナス方向に考えすぎだと親に言われる。これは自分でも感じていることで

ある。また、自分に対して自信もなく、よく失敗してしまう。失敗する点は似ているが、のび太の大きな違いは、物事に対するとらえ方だと思う。のび太はあまり事態を深刻に受けとめず、何事に対しても失敗を恐れず、さらりと対応する。しかし、これに対して私は、何事も冷静に判断する素振りを見せるが失敗を恐れ「この発言で本当に合っているのか。」という疑惑を抱いて自信をなくし、いつも光が灯らずに突っ立っているような状態でなかなか行動に移せない。夢を叶えるためにまず先を見据えて、努力を重ね、取り組む事全てに全力をかけて挑戦できたらと思う。

さらにこの本の中で、「ほかのものが目に入らないほどの集中力を持って打ち込むことで『くじけない心』はさらに強さを増す。」と著者は言っている。「くじけない心」は、私に最も必要な武器だと思う。しかし、今の私は、一心不乱になり、打ち込める事がないので、まず自分の趣味や得意分野から探さなくてはならない。またのび太はどんなに痛めつけられても、悪口や妬みよりも、反発心をエネルギーに変えている。このように、悪口を口にせず行動するためには、他人の素晴らしさに共感し、素直に賛成する姿勢が必要である。その姿勢が自分をより進化させられると確信している。

そして、ダメな奴の代名詞ともいえる「のび太」から人生について学習させられると、なんともしゃくにさわるが、私以外にも、のび太から様々な事を学んだ人はたくさんいると思う。

やがて勝ち組となる素晴らしいのび太の生き方を見てみると、大らかに、前向きに、そして自分を見失わずにしっかりと生きていく事が大切だと思うし、親や友達、そして社会に受け入れてもらえているという感覚が大事だと思う。また、のび太が夢を叶える事が出来たのは、ドラえもんと出会ったためだろう。

私のそばに、青色で丸みを帯びた人懐こいネコ型ロボットのドラえ

もんはいないけれど自分の心の中にドラえもんは存在する。希望という光を掲げ、心の輝きを失わずに、一度きりしかない人生を歩んでいきたい。

# 銅賞（中学生の部）

題材『黒部』

## おばあさんから聞いた戦争の話で感じたこと

黒部市立明峰中学校二年 辰 莉乃佳

ある日、友人と一緒に帰っていた時のことです。散歩中のひとりのおばあさんと出会いました。私は今まであいさつくらいしかしたことがありませんでしたが、友人とはよく話をしているおばあさんです。おばあさんが笑顔で「おかえり」と言ってくれました。それから自転車を止め、話がどんどんはずんでいきました。

おばあさんが子どもの頃の話を書きました。おばあさんは小学校の時クラスで一番頭が良かったこと、家は呉服屋さんを営んでいたことなどです。その中でも私が一番心に残ったことは戦争の時の話です。おばあさんの歳は八十歳くらいだと思います。今年が戦後七十五年なので、おばあさんがまだ小さい時のことです。おばあさんは昔から、黒部市に住まわれていたのです。あまり被害は無かったそうです。しかし、東京など都会に住んでいた子どもたちが、地方に疎開してきたそうです。お母さん、お父さんが亡くなったと聞いて泣いている子どもたちをたくさん見てきたそうです。また、富山市に投下されていた爆弾がここからは花火のように見えたそうです。最後におばあさんは私

たちにこう言ったのです。「学校に行けるって幸せなことだよ。ご飯が食べられるって幸せなことだよ。」と。

さようならをする時に友人が「ありがとう。」と言いました。その時は、あまり感じませんでした。が、今思うと貴重な話を聞かせてもらってありがとう、という意味と、戦争が起きていた中、生きぬいてくれてありがとう、という2つの意味が込められていたのだと思います。短い時間だったけれど、おばあさんのような戦争体験者から直接話を聞いたことで、私はこれまで感じたことのない何か、今までテレビや本でしか知ることのなかった戦争が、こんな身近な所で起こっていたという現実と、戦争の悲しさを知ったこと、それを繰り返してはいけないことを忘れてはいけなさと改めて気付かされました。

おばあさんのもとには、戦争の体験を本に書いてほしいという依頼があるそうです。私たちは戦争を経験していませんが、このような話を聞き伝えていくことが大切だと思います。

先日（八月十五日）に終戦から七十五年が経ったとニュースで流れていました。私たちの日常はおじいさん、おばあさんが築き上げてくれた特別なものです。決してあたりまえなものではありません。ずっとずっと笑顔があふれる平和な世の中が続くことを願っています。

おばあさん、ありがとう。

## 銅賞（中学生の部）

題材『八月二日、天まで焼けた』

八月一日

富山市立芝園中学校三年 横山 昂生朗

眼前がんぜんの夜空には今夜も

大輪の花が煌きらめいている

どおんとボクの家を揺らしながら

七十五年前の夜空にも

星が煌めいていたのだろうか

どおんと真っ赤な炎にのまれながら

七十三回目の今夜も

どおんとボクの家を揺らしながら

西の空に大輪の花が煌めいた

ボクが生まれる七十年以上も前から

鎮魂と戦後復興の願いを込めて

途切れることのない特別な夜

戦争のない平成生まれのボクが

一年に一度

平和を考える特別な夜

## 銅賞（中学生の部）

題材『キトキトの魚』

とびきりの「キトキトの魚」

高岡市立高岡西部中学校一年 盤若 なな子

「キトキト」はキョトキョトじゃあない

キビキビでもギンギンでもない

ハッチャキのような派手な言葉でもない

「キトキト」はピチピチやイキイキと、

ちよっと似ている

似ているけれど、やっぱり違う

「キトキト」はやケに元気でイキがいい！

普段は地味かもしれないけれど

今日は健気に頑張っている：

ほら、今日もこんな声が聞こえる

「キトキトの魚ちようだい！」

みんなを元気にしてくれる

そんな「キトキト」に憧れて

私もとびきりの「キトキトの魚」になりたいなあ

# 銅賞（高校生の部）

題材『ドラえもん』

## 優しさと小さな勇氣

高岡高等学校二年 沖 夏子

「ドラえもん」は未来から来たネコ型ロボットのドラえもんとのび太の日常を描いた作品である。富山県民だけでなく、全国の子供に広くよまれてきた日本を代表する作品だ。日本で育ってきた子供でドラえもんを知らない人はいないだろう。私自身も、家に父の漫画が何冊もそろっていたこともあり小さい頃からドラえもんに親しんできた。

この作品はなんといっても、ドラえもんの四次元ポケットからでてくる数々のひみつ道具が魅力的だ。空を飛べるタケコプター、過去や未来を行き来できるタイムマシン、どこへでも行けるどこでもドア。

「こんな道具があったらなあ」と少なからず思ったことのある人は多いのではないか。自分の願いをかなえてくれる道具があったらきっと大いにそれに頼ってしまうだろう。

のび太もその例外でない。学校や友達と何かあると、ドラえもんに泣きつきひみつ道具で問題や悩みを解決しようとするのがお決まりのパターンだ。いつも道具を使って楽をして過ごそうとしたり、それでは羽目はずしすぎて失敗したりもしている。

ここで一つ疑問が生じてくる。のび太という主人公像についてである。のび太は泣き虫で臆病で勉強が嫌いな少年だ。怠け者でいつも母親に叱られている。どうして作者は臆病でとりえの少ない少年を主人

公にしたのだろうか。のび太を出木杉くんのように何でもできる優等生にしなかったのはどういう意図があったのか。

もちろん、欠点のある主人公の方が読者も共感しやすく、おもしろいという意見もあるだろうが、私はこう考える。

まず、のび太は臆病だけでなく、勇敢な一面ももちあわせている。のび太がそうなる場合は大抵、他の人が困っている時や苦しんでいる時だ。このことから、彼は他人のために行動できる心優しい人間だといえる。

また、あるときしずちゃん父親がのび太のことをこう評価している。「あの青年は人のしあわせを願ひ、人の不幸を悲しむことのできる人だ。」このことはつまり、のび太は人の気持ちによりそえる人間だということを書いてある。自分が気の弱さや臆病さをもっている故に、人の気持ちに素直に向き合えるのだと思う。

のび太は人がもっている弱さを強調した少年だといえる。人の弱さとは臆病な気持ちや気の弱さ、楽をして生きたいという気持ちなど、人が誰しももっている気持ちである。だが、それは決してのび太がダメな人間だということではない。人間としての弱みをもっているからこそ誰よりも他の人間の弱みを理解し、それによりそえる優しく思いやりあふれる人間なのだと思う。それによって勇敢になることもできるのではないか。

作者はのび太を通して誰もがもっている優しさと、勇氣を描きたかったのではないかと思う。「ドラえもん」は全ての人を受け入れ肯定し、勇氣を与えてくれる作品だ。臆病でも気が弱くても、のび太のように優しさと小さな勇氣があれば胸を張って生きていける。

# 銅賞（高校生の部）

題材『城端』

## 新しい世界に飛び出して

高岡南高等学校二年 藤田 璃子

高校一年生の入学式を思い出してほしい。初めての慣れない環境で不安と希望が入り混じったあの頃を。まずは自分と席が近い人と話し始めるようになったのではないだろうか。その時やはり盛り上がる話題のひとつとして出身中学校が挙げられると思う。私もそうだった話題がでて、「城端中学校だよ。」と言うと、「えっ？それどこにあるんけ？初めて聞いたよ！」と言われてとても驚いてしまった。一方で、城端について知ってほしい！興味をもってほしい！伝えたい！という思いも強くなった。

その日から私は城端って何だろう？何があるだろう？と考えるようになった。これまでは保育園児の頃から中学生になるまで共に成長してきた地元の友達との関わりが多く、あまり城端について考えることもなかった。限られた狭い視野では城端の魅力になかなか気づく機会がなかったからだ。地元の友達と話していても、「何もなし。何かあったら遠出せんなんし、大変。はやく城端から出たいわ。」という会話が多く、マイナス面しか見ようとしてこなかった。しかし、高校という新しい環境に進んだことで私が今まで見てきた視野が一気に広がった気がした。そして、これまであたり前だと思っていた城端の良さに気づくことができた。「城端ってどんなところけ？」と聞かれたら、「すごく素敵どころなが。爽やかな緑に囲まれ、古くて美しい街並が建ち並んでいて、何より人の温もり、そして心落ちつくようなおじいちゃんやおばあちゃんの富山弁が飛び交うところだよ。」と自信を持

って言いたいと思う。そしてもう一つ多くの人に知ってほしいことがある。それは「城端麦屋祭り」だ。私にとってこの祭りは九月中旬に催されるあたり前の祭りだと思っていた。しかし、高校に進学して「麦屋って知ってるけ？城端の子どもから大人まで幅広い年代の人達が町内ごとに町に設置されたステージでおぎや節とか踊るんやけど…」と友達に言うと、「何それ？初めて聞いたよ。」と言われてすごく驚いてしまった。私にとっては小さい頃からずっと行きつづけている祭りです。その日はとても多くの人々が町に集まる。子どもが減りつづけている今、継承していくことが厳しい町内も多くある。それでも過去に麦屋を守りつづけてきた人々の思いを受け継ごうと今に、そして未来へとバトンを受け渡している。今、そのバトンは多くの人達の思いがこもっていてとても重いが手離してはいけないと思う。長い歴史と和とが折リなすこの祭りをもっと賑わせたい。そう改めて強く思った。

私は高校生になってはじめて城端という小さな町から飛び出した。たくさんさんの出会い、発見があつて毎日がとても楽しい。その中で一番私にとって驚きだったことは、同じ富山県内でも城端を知らない人、そして城端で催される祭りを知らない人が多いことだ。私は城端の知名度を上げたい。そしてより多くの人に城端の良さを伝えたい。そのためにはまず私が今よりもさらに城端を好きになりたいと思った。そして、その思いをたくさんの人達と共有したいと思う。これからは「城端なんて、何もなしよ」と言わずに魅力の発信に努めたい。私をこれまで守り育ててくれたこの城端という町に誇りをもって…。そして、あたり前だと思っていたことに感謝したいと思った。これまでお世話になった何倍に、何十倍に、何百倍にして恩返しをしていきたい。「今」というこの瞬間を大切に思っ…。

# 銅賞（高校生の部）

題材『富山の山々』

## 山が見える

高岡南高等学校二年 金森 江里菜

朝、駅へののぼり坂。まだはつきり起きていない体でのぼりきると見えるは立山連峰。駅の上にすこしだけのぞく立山はひたすら青く澄んでいて、その神々しさすら感じる姿は「うむ、今日も生きているな。」とっているよう。拝めたことに感謝しつつ、何となしに今日はいい日だな、と思う。駅の大きなガラスの壁から全望を見る。毎日見てもこの壮大さは目と心をうばう。

夕方、学校帰りの電車、城端線。古めの車両がゆれるのにあわせ自分もふらつく。疲労感にうなだれていると視界が一段赤く明るくなる。田んぼ、家、山、夕陽。陽が空を赤く染めながら山に沈む。立山とは違い低く近い緑が続く山々。その景色を窓が額縁のように切りとって、私は飾られた絵から目が離せなくなる。うなだれていた頭もあがり、一日の終わりにすこしの元気をもらう。

私は山が好きだ。いつも私の心に落ちつきと元気をくれる。富かな山、山に富んだ、どっちの意味でも良い。私はこの山々のある富山が好きだと、静かに胸の中で思う。



## 佳作（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

こどもから子供へ

黒部市立明峰中学校二年 宮下 美夢

変わらない

いつもの母 いつもの姉 いつもの弟

こどものままだった

変化する

変わる母 変わる姉 変わる弟

こどもではなく子供になった

道に迷い争い合うおおかみこどもと母

その姿を自分にかさね

自分の道を考えて

あの自然の囁きは

いつまでも残っていくのだろうか

## 佳作（高校生の部）

題材『高岡御車山祭り』

7つの山車の神様へ。

高岡南高等学校二年 津田 礼百

4月30日、宵祭。神様がいる山車の前。

本祭の成功を願うと共に、

今から舞を奉納します。

緑々しい神の葉を風が揺らす。

響き渡る鈴の音。華麗な扇の返し。

ふと山車へ目を向けると、

まるで、神様が自ら光を放って

私たちを照らしてくれているようで、

神々しい山車の姿に感動で涙しそうです。

明日、多くの人に幸せを届けてくれる

7つの山車の神様へ。

どうかこの舞が届いていますように。

【短歌・俳句部門】

金賞（中学生の部）

題材『赤祖父郷土地改良区史』

赤祖父の山河

南砺市立井口中学校三年 林 空弥

赤祖父あかそぶの

川の流れに逆らいて

上流かみへと登る鮎

たくましき

金賞（高校生の部）

題材『棟方志功作品集〜富山福光疎開時代』

志功板画に思う

高岡第一高等学校三年 細川 依落

彫り込んだ

刀の跡は

深々と

志功板画しこうばんがの

朱夏を裏書く

## 銀賞（中学生の部）

題材『納棺夫日記（映画「おくりびと」）』

富山市立北部中学校二年 田近 佐知

生と死を

繋ぐ光を

まといつつ

人々の想い

うけて来世へ

## 銀賞（中学生の部）

題材『黒部源流山小屋ぐらし』

立山三景

南砺市立井口中学校三年 山崎 麻由

母に添う

雷鳥に愛

降るほどに

## 銀賞（高校生の部）

題材『万葉集』

上市高等学校二年 渡辺 菜月

滑川海岸

春の雲浮かぶ

家持が

あぶみつ  
燈浸かせし

日もかく

## 銀賞（高校生の部）

題材『万葉集』

上市高等学校二年 宮坂 侑菜

自転車を

な  
並め仰ぎたり

あまほらし  
雨晴の

うみやま  
海山と君の

背に光る汗

## 銅賞（中学生の部）

題材『春を背負って』

「春を背負って」を見て

高岡市立高岡西部中学校一年 藤田 有

あればいい

心の避難所

誰にでも

すみれ小屋みたく

温かい場所

## 銅賞（中学生の部）

題材『とやまの風物詩』

富山市立興南中学校三年 菅原 唯愛

われ先に

足跡残す

銀世界

## 銅賞（高校生の部）

題材『高熱隧道』

隧道

高岡高等学校二年 花川 侑紀

溪谷の

暗闇にのびる

隧道を

父の背を越し

カゲロウが進む

## 銅賞（中学生の部）

題材『称名滝』

涼を楽しむ夏

富山市立西部中学校三年 手島 里菜

凜々と

称名の滝

吾をうつ

# 銅賞（高校生の部）

題材『万葉集』

上市高等学校二年 辻 綾音

家持は

寒ブリ賞味

せしかとぞ

布勢ふせの水海みうみの

跡に想へる

# 銅賞（高校生の部）

題材『雨晴海岸』

## 富山の風景

高岡南高等学校二年 中井 亮典

義経岩

白波舞いて

冬来たる

# 佳作（中学生の部）

題材『夏』

夏

富山市立西部中学校三年 長谷川 倫太郎

休業の

日数短し

蟬の声

# 佳作（高校生の部）

題材『雨晴海岸』

富山の風景

高岡南高等学校二年 駒井 颯

驟雨過ぎ

共に煌めけ

鬱金香

【美術部門】



知事賞(中学生の部)

「絆」〈題材「人生の約束」〉

富山市立三成中学校3年 松田 哲太



知事賞(高校生の部)

「橋まつりの日」〈題材「とやま百川」〉

富山中部高等学校2年 平井 有佳



金賞(中学生の部)

「おわら風の盆」〈題材「燈火風の盆」〉

富山市立和合中学校 3年 谷口 侑依



金賞(高校生の部)

「タイムトンネル」〈題材「ドラえもん」〉

富山西高等学校 3年 七澤 日南





銀賞(中学生の部)

「希望」〈題材「劔岳〈点の記〉」〉

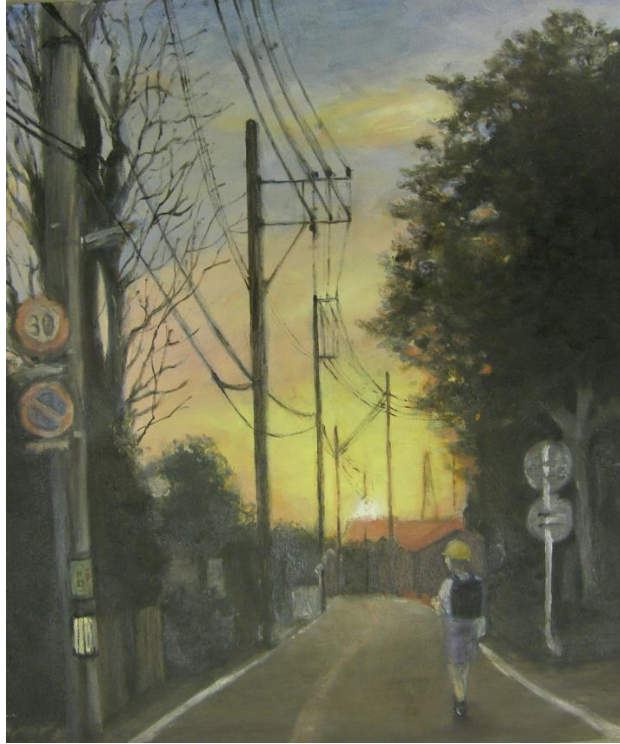
富山市立堀川中学校2年 田代 将鷹



銀賞(中学生の部)

「きこえる」〈題材「LIFE 楽園をもとめて 生命と美の物語」〉

富山市立和合中学校3年 安藤 望心



銀賞(高校生の部)

「通学路」〈題材「長岡の郷土史」〉

富山中部高等学校2年 武部 知紘



銀賞(高校生の部)

「思い」〈題材「桜花 今ぞ盛りと人は言えど我れは寂しも君としあらねば」〉

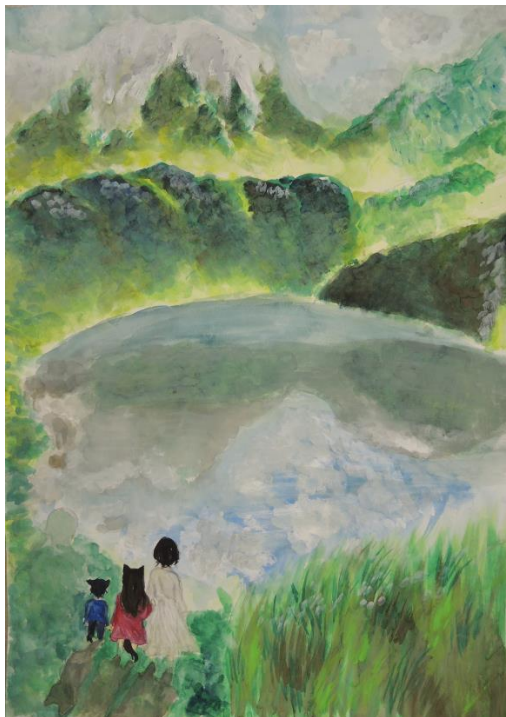
高岡工芸高等学校1年 木田 愛梨



銅賞(中学生の部)

「夕日が沈んだ町」〈題材「環水公園」〉

富山市立奥田中学校 3年 川崎 愛恵



銅賞(中学生の部)

「せいちょう」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

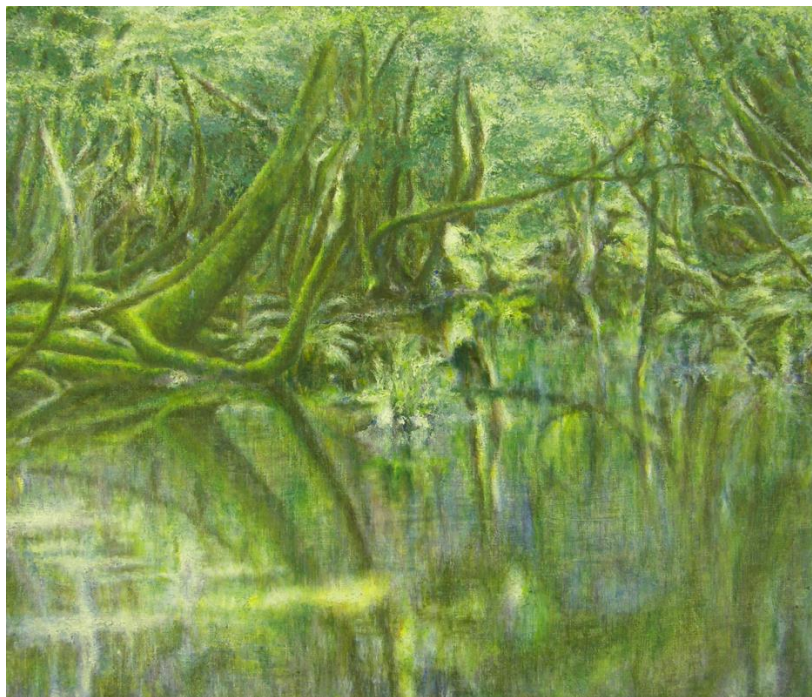
高岡市立牧野中学校 3年 横畠 アケミ



### 銅賞(中学生の部)

「にじのもと」〈題材「句景とやま 21世紀のふるさとの風景を探して」〉

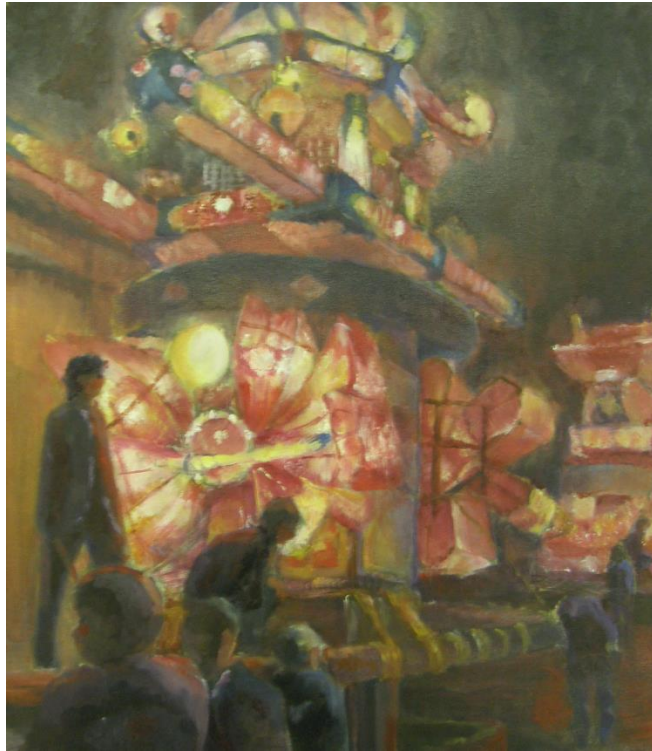
富山市立和合中学校2年 安藤 百奏



### 銅賞(高校生の部)

「杉沢の沢杉」〈題材「国天然記念物とやま巨木探訪」〉

富山高等専門学校2年 山下 ゆい



銅賞(高校生の部)

「赤らむ」〈題材「とやま祭りガド」〉

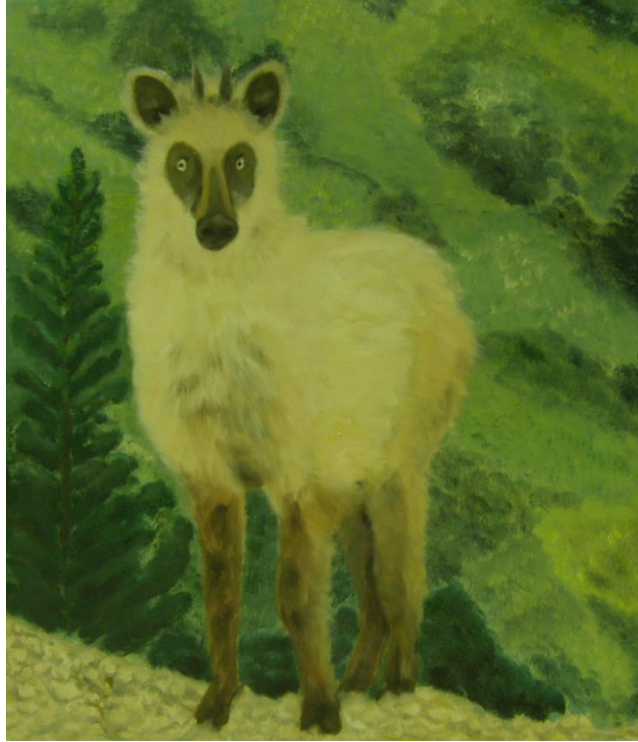
富山中部高等学校2年 岩尾 琉花



銅賞(高校生の部)

「誇り」〈題材「劔岳」〉

富山中部高等学校2年 松島 凜



佳作(高校生の部)

「守り神のいでたち」〈題材「カモシカとしょかん」〉

富山中部高等学校2年 斎藤 優希



佳作(中学生の部)

「五箇山と自然」〈題材「世界遺産の合掌造り集落」〉

小杉高等学校2年 前口 ちひろ



知事賞(中学生の部)

「ドラえもののふるさと富山」〈題材「ドラえもん」〉

小矢部市立大谷中学校 2年 加納 涼成



知事賞(高校生の部)

「生命の水」〈題材「万葉集」〉

富山中部高等学校 1年 石原 剣



金賞(中学生の部)

「生命力」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

富山市立堀川中学校 1年 氏家 雅晴



金賞(高校生の部)

「堪忍」〈題材「長い道」〉

富山南高等学校 2年 大原 菜月





銀賞(中学生の部)

「海王丸パーク・新湊大橋」〈題材「ナラタージュ」〉

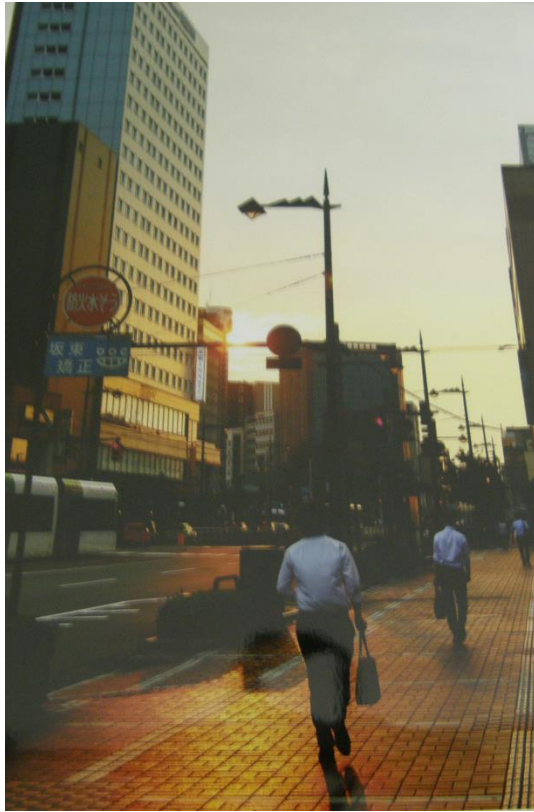
小矢部市立大谷中学校 3年 竹原 菜々花



銀賞(高校生の部)

「びいどろ」〈題材「びいどろに酒のうつりや雲の峰」〉

富山南高等学校 1年 下田 浩夢



銀賞(高校生の部)

「あかい街」〈題材「RAILWAYS」〉

第一学院高等学校2年 田村 和也



銅賞(中学生の部)

「『日本のベニス』内川」〈題材「富山の港町」〉

富山市立堀川中学校2年 源 航希



銅賞(高校生の部)

「吾輩はニコニコである」〈題材「アズミ・ハルコは行方不明」〉

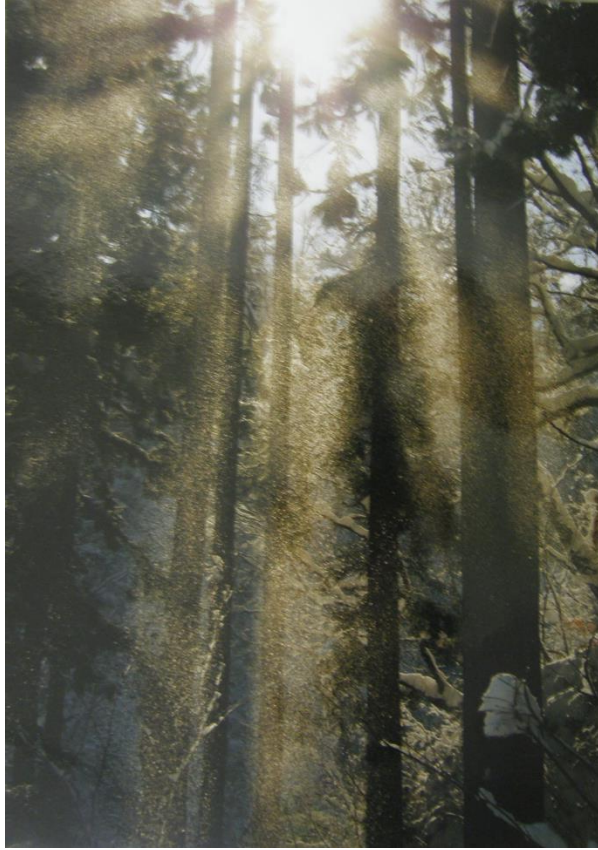
高岡第一高等学校 2年 吉田 和真



銅賞(高校生の部)

「約束」〈題材「人生の約束」〉

富山南高等学校 1年 高寺 帆春



銅賞(高校生の部)

「徒花」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

中央農業高等学校2年 岩白 颯太



佳作(高校生の部)

「静かに輝く朝日町の宝」〈題材「富山わがまちこころ一番」〉

泊高等学校2年 河村 美乃里



佳作(高校生の部)

「忘れてはいけない」〈題材「りんこちゃんの8月1日」〉

富山東高等学校1年 室山 杏里紗